

TOPはこう読む

時代のニーズを捉えながらも、 いつの時代も必要な教育を

偶然のようでありながら必然性のある人のつながりや縁

『田園発 港行き自転車』は、宮本輝さんの最新作です。

同氏のデビュー作『泥の河』は太宰治賞を受賞し、後に映画界の巨匠・小栗康平監督によって映画化され、日本アカデミー賞最優秀作品賞など、各賞を総なめにしたことは多くの皆さんが知るところです。

『田園発 港行き自転車』は、読書家でもあり、塾業界の大先輩でもある某先生から紹介されました。昨年度の本誌の特集では森絵都さんの『みかづき』を紹介させていただきました。たださましたが、それも先生からの推奨でした。

小説の舞台は、片山浄見理事長の学校法人片山学園がある富山県。立山連峰を仰ぐ田園風景を背景に物語は展開します。

全くの他人であろうはずの人が、あり得ないような出会いや偶然の出来事で徐々につながっていきます。人それぞれの人生が目に見える縁で絡んでいく様子にハッと、わくわくしながら読み終えました。

そうして振り返ってみると、人のつながりや、人との縁は偶然のようで必然性があることを、あらためて感じます。目まぐるしく状況が変化する時代ではありますが、人と人との関係はより深くゆつ

くり温めたいものです。

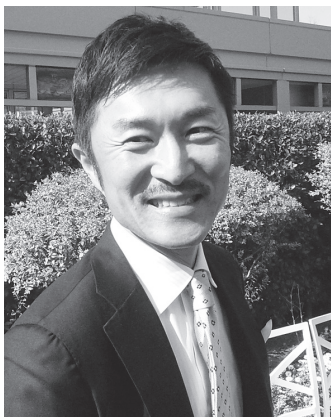
大学入試問題が公立中高一貫校
適性検査・PIISA型問題に

さて、当社では中学受験を対象とした出版・編集業務を行っています。その一環と

株式会社 クロノクリエイト
(公立中高一貫校対策センター)

小木曾 正浩

代表取締役



して、公立中高一貫校対策の教材制作を手掛けて14年が経過しました。この間、適性検査対策用として多数の教材が出揃いました。また、教材だけでなく、アクティブ・ラーニングを実現するための講座やツールも開発されています。

【問い】 今後の公立図書館の在るべき姿について、あなたはどのように考えるか。

この問いは「大学入試希望者学力評価テスト(仮称)」で、評価すべき能力と記述式問題のイメージ例として提示された、たたき台です。公立図書館に関して、1400字程度の新聞記事を読ませて答える問題です。

学力評価テストに記述式問題が積極的に取り入れられ、知識の「量」に替わって、思考や判断など知識の「活用力」が問われることになるわけです。つまり、大学入試問題が、公立中高一貫校で出題される適性検査・PIISA型になるといえます。

さらに世の中の出来事に対する関心【時事力】と、論理的な思考力をもって自分の意見を記述する【作文力】が必要とされるのです。

小学生からの
「時事・記述・作文ゼミ」

小学生の段階から、これらの力を育成

するために、小学生用新聞のニュース記事そのものを活用すべく、弊社で以下の商品販売することになりました。

●時事・記述・作文ゼミ

受験生を抱えるご家庭で広く読まれている雑誌「プレジデントファミリー」と、週刊「読売KODOMO新聞」がコラボした新企画教材です。

毎週のニュース記事から題材を指定し、用意された学習シートで段階的に学習を進めます。

注目すべき点は、ニュース記事を実際に書いた新聞記者による解説映像が用意されていることです。活字だけでなく、新聞記者の話をリアルに聞くことで、より興味が湧くはず。さらに、受講生同士で意見を述べ合ったり、分からない語彙の調べ学習をしたりしながら、塾内アクティブ・ラーニングを実現することも新たな試みです。

加えて、月1回の課題作文もオプションで用意されているので、作文添削講座としても活用できます。

なお、理科・社会分野の学力補強コースとして、毎週の講座を開設する学習塾もすでにあります。

このように時代のニーズを捉えながらも、いつの時代でも必要とされるもの(子どもの生き抜く力＝思考力・判断力・表現力等)を育成する教材開発に携わっていきたくと考えています。